



下関の椿

園芸センター ☎258-0147

美しさに心奪われる
西洋椿の宝庫

園芸センターでは春、暖かい陽光とともに、たくさんの方が一斉に咲き、一年のうちで一番華やかな季節を迎えます。

中でも目を引くのが、山側にある西洋椿園です。古くから日本にあるヤブツバキとは違い、西洋種は花が大きく、バラのような花びらや、フリルのような花びらを持つ華やかな品種が多くみられます。

息をのむほど美しいこの西洋種が、園芸センターには約90品種あり、中には国内ではなかなか見られない品種もあります。

今後は都市公園の椿園に

園芸センターの椿園は、昭和49年から始まりました。

西洋椿園は、当時米国カリフォルニア州で種苗会社を経営していた、豊北町出身の吉村和一さんの縁で、空輸してもらった穂木を育てて作りしました。東洋椿園は、大分県温泉熱利用研究所からもらった穂木や苗木を育てて作りしました。

これまで園芸センターが、斬新なツバキを作り出してきたのは、椿

| 下関人なら行っておきたい |

下関の椿処


東行庵 TOGYOAN 大字吉田

園東行庵 ☎284-0211



第3駐車場から登っていくと、千本椿園があります。花びらや大きさ、花の色、葉の形などが異なるさまざまな種類のツバキを楽しむことができます。

東行庵の椿園は、第三世庵主の谷玉仙尼が椿好きだったことから、整備が始まりました。地元の有志がツバキの苗を持ち寄るなど、みんなで協力して山に苗が植えられました。そして昨年、園芸センター初代所長坂田利明さん(山口市在住)から、椿園整備資金が寄せられ、園路整備が完了。現在、市内の登録新花展示ステージ造りが進行中です。


鯖釣山 SABATSURIYAMA 豊浦町

園宇賀ふれあいセンター ☎776-0021



鯖釣山には、約4000本ものヤブツバキの群生林が広がっています。

標高が182mと低く、宇賀地区の皆さんが整備をしているので、初心者でも安心して登ることができます。



椿まつりは、今年も中止になってしまいましたが、みんなでツバキを楽しんでいます。山頂からは、素晴らしい海と町並みを一望できますよ。



園があり、素材に恵まれていたことが背景にあります。

園芸センターのツバキは、「花をじっくり観賞していただきたい」という想いで、樹高を低く仕立てているので、見上げることなく花を楽しめます。花を見比べて、その魅力をお楽しみください。

園芸センターは令和4年3月で閉園しますが、山側は現状のまま、都市公園として整備される予定です。これからのツバキは、私たちを楽しませてくれることでしょう。



ツバキの新花に込められた想い

世界でここだけでしたか
見られない花を

くさんのオリジナルの花を作
ってききましたが、中でも思い
入れがあるのはツバキです。

「どうすれば全国からお客
さまが、園芸センターに来て
くださるかを考えて、世界で
ここだけで見られない花
を作ろうと思いました」園芸
センターの内田祐介主任はそ
う語ります。

「下関は源平の戦いがあつ
た場所なので、下関らしい源
平咲き（源氏と平家の旗の色。
紅白2色）の花を作りたいと
思いました」

園芸センターには豊富な品
種のツバキがあり、その種子
を先輩たちとまいてきました。
ツバキの基本の色は赤と白。

これまで内田主任は、ラン
タナ、ペゴニア、ビオラなどた

イメージに合う花が、生まれ
るのではないかと考えました。
「種子をまいて、何年かす
ると花が咲きます。中には親
と違う良い花が咲くことがあ
ります。毎年同じ花が咲くと
は限らないので、何年も観察
します」

観察と選抜を繰り返して、そ
のツバキの性格を見極めるた
め、何年も育てます。

「駄作は生み出したくない」
という思いで、少しでも納得
できない形質があると選抜落
ち。内田主任がすべてに納得
できたツバキだけが、世の中
にお披露目できるツバキにな
ります。

何百もの種子をまいて、10
年以上かけて残せるのは一つ
か二つです。

「壇之浦」全国の自治体
で初めての品種登録

こうして長い年月を経て、
ついに新しいツバキを、世の
中に発表するときがきました。
2018年、新花「壇之浦」を
日本ツバキ協会へ登録。全国

「壇之浦」全国の自治体 で初めての品種登録

の自治体で初めて登録した品
種で、審査員からも高い評価
を得ました。

この後、続々と新しいツバ
キを発表。「赤間手毬」「下関千
年浪漫」「満珠」と、計4品種
が登録されました。

下関を代表する花へ

下関を代表する花へ

新しい花へ込められたもう
一つの想い、それは「ツバキ
が下関を代表する花になって
ほしい」というものです。「園
芸センターの椿園は残ります
し、作出ツバキがいろいろな
ところで咲いて、下関を代表
する花になってくれることを
願っています」と内田主任。

現在、下関市作出ツバキは



45年以上前に植えられたツバキ
が、下関市作出ツバキの始まり。

植物譲渡会

下関市作出ツバキの
苗を無料配布します
回3月9日(水) 13:30
整理券配布予定。※先
着順。詳しくは9で

市内のいろいろな所に植えた
り、まちづくり協議会を通じ
て配布したりしています。
また、より多くの方に親し
んでいただくため、市民の皆
さんへの譲渡会も開催します。
想いが込められたツバキを
育ててみませんか。
そして、どんどん増やして
素晴らしいツバキを下関にた
くさん咲かせてみませんか。

内田主任が植物を見るまなざしは、鋭く、厳しい。
その奥には、植物への愛情があふれています。



下関で生まれた新花

2012年に、日本ツバキ協会による新花の品種登録制度が始まりました。登録第1号は、下関市の山本尚幸氏(故人)が作出したものでした。以降登録された新花は、102にのぼり、その内11が下関市や下関市民により作出されたものです。

登録者

NO.1・2・3・4／下関市(園芸センター) NO.5・6・7・8・9・10／山本尚幸氏(吉母) NO.11／木本豊彦氏(菊川)

no.1 壇之浦

Dannoura



源平合戦の地「壇之浦」から命名。源平咲き。中心の唐子(おしべが花びらになったもの)にも、きれいに模様が入り、形が整っているツバキ。

no.2 赤間手毬

Akamatemari



下関市の旧市名「赤間関」「赤間神宮」赤と白の間の桃色」より命名。手毬のような形状で、小輪。開花初期と後期で花の形が変わる。

no.3 下関千年浪漫

Shimonosekisenenroman



千年経っても色あせない悠久の浪漫を秘めたツバキになるように命名。八重咲きで中輪。純白色で華やかな唐子を持つ高貴な雰囲気のあるツバキ。

no.4 満珠

Manju



下関に伝わる不思議な珠「満珠」から命名。花びらが反り返ることなく、最後までコロンとした玉のような形状を保つ。世界に誇れるかわいらしい形のツバキ。

no.5 優心白

Yuishinhaku



黄緑から黄色の模様が入る葉が特徴。日本ツバキ協会登録第1号。

no.6 辻の紫

Tsujiomurasaki



広大な椿園の中から選抜。11月に入ると紫色が濃くなる。

no.7 山本紫

Yamamoto murasaki



12月中下旬から咲く。辻の紫より濃い紫色。花の直径は6~7cm。

no.8 優しい母

Yasashihaha



作出者の母親の好きなツバキだったことと、地名・吉母の「母」から命名。

no.9 鯉の滝登り

Koinotakidori



花びらの重なり方が鯉のように見えることから命名。

no.10 尚、幸せ

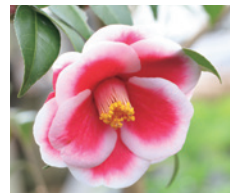
Naoshinase



余命宣告を受けた作出者が一層幸せになるよう、作出者の父親が命名。

no.11 玉仙

Gyokusen



椿好きだった東行庵庵主谷玉仙尼の三十三回忌を記念して命名。

「椿の新花と達人たち」 日本ツバキ協会発行



表紙写真には、赤間手毬が選ばれました。